第 53 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	中川ゼミ	チーム名	マエダ・ハン
タイトル	朝鮮海峡海底トンネルの政策評価		
テーマ群	d）国際経済		
メンバー	前田陸人、中川新太郎、吉田晴飛、石田真彩、堀本彪人、池田直剛		
研究計画内容	【研究背景】 朝鮮海峡海底トンネル建設計画とは、トンネルを作ることで日本と韓国をトンネルでつなぐ計画である。このような海中トンネルの例として、青森県と北海道をつなぐ青函トンネルやイギリスとヨーロッパをつないだ英仏海峡トンネルがある。青函トンネルができたことにより北海道と本州をつなぐ物流が容易になった。 一般財団法人国際ハイウェイ財団は日韓トンネルのことを愛の懸け橋と呼んでおり、日韓トンネルを作ることで日本と韓国は良好な関係を気付くことができ、そのような例を作ることで世界平和にもつながるとしているが、我々は、彼らとは距離を置いて中立的な立場からこの政策を評価する。 【研究内容】 まず日韓の様々な分野を比較していく。人口の増減や総生産の推移・日韓の交通インフラの状況・日韓間の旅行者の状況・日韓の貿易状況を調べ、日韓での交流の深さや、類似している部分を洗い出す。また韓国にとどまらず、中国やロシアへと路線をつなげることも想定する。 次に、英仏トンネルや青函トンネルなどと比較し、鉄道建設事業の政策評価を行い、時間短縮効果・交流人口の算出・事業費を割り出して建設の実現可能性を問う。 【期待される効果】 朝鮮海峡海底トンネルを建設することが現実的に可能なのか、不可能なのか。客観的な分析、建設したときの影響の評価を行う。青函トンネルの先行研究を用い、朝鮮海峡海底トンネルの実現可能性を明らかにする。 【参考文献】 梶山千里『九州発「国のかたち」を問う』: 日韓トンネル構想への期待』山岳出版社、2020 年 9 月 小野田滋　2014 年　『朝鮮海峡トンネル計画とその経緯』土木史研究. 講演集 / 土木学会土木史研究委員会 編 34 199-207, 2014 土木学会 第二青函多用途トンネル構想研究会　2018 年『第二青函多用途トンネル構想』 https://www.doukenkyo.jp/relays/download/53/25/132/75/?file=/files/libs/75//201807131334052303.pdf		